

# 山脇議員「小学校特例校」で質問



## 米原市民報

日本共産党米原市会議員  
山脇正孝 Tel.52-1093  
日本共産党湖北地区議員団  
事務局藤田正雄 Tel.55-1128

<http://www.jcp-maibarashigidan.com/>

# 8割の英語授業は可能か

2月28日の山脇議員の一般質問の続編です。2020年度からの小学校学習指導要領の改定で、5・6年では初めて「教科」として「英語」を学習することになります。教科ですから、成績評価も入ります。ところが米原市では先取りして、来年度から市内小学校9校が英語教育課程特例校として、すべての学年で英語が教科化され、成績評価がなされます。英語助手はいますが、ほとんどが英語免許を持たない担任が英語を教えることとなります。来年度からの米原市の英語教育の問題点を質問しました。

### アンケート結果は

Q. 最近、子どもたちへの英語授業アンケートを行った市内の小学校や研究団体はあるか。

A. 小学校5・6年生全児童を対象に英語・外国語活動に関するアンケートを実施しました。その中で、英語は好きですかという問いに、とても好き・好きと回答した児童の割合は58%でした。また、英語の学習は楽しいですかという問いに「楽しい」に回答した割合は73%、もつと英語を使えるようになりたいですかという問いに、「なりたいたい」との回答は79%でした。

### 8割の英語授業

Q. またアンケートを続けていたかどうかと思えます。

A. さて、30年度の主要事業説明資料によれば、市内小学校9校が英語教育課程特例校として、5・6年では授業の8割を英語で行うとありますが、塾などで英語を習っている子ども以外は、理解が難しいのではないですか。

### 好きな児童88%

Q. 私は8年ほど前にある学校の6年生への英語アンケートで「塾に通っているか」という質問で半数近くが塾に通っていると答えました。英語教育は塾という民間の施設も含めて成り立っているのかな、と改めて驚愕しました。機会があれば、その点も研究してほしいと思います。さて、58%という数字は、教育長はどう受け止めておられますか。

### 評価の方法は

Q. 来年度からの英語教育は、評価を伴う教科なのか。

A. 評価は従来の文章表記で行おうと考えています。

Q. その文章評価は、全学

Q. 来年度からの英語教育は、評価を伴う教科なのか。

A. 評価は従来の文章表記で行おうと考えています。



### 英語の免許を持った教諭

Q. 授業の8割を英語で行うというのは、決して子どもたちのためにならないと思います。英語科の評価はだれがどのように行いますか。

A. 英語科の評価は、指導する学級担任が行います。

Q. 米原市の小学校教諭で英語免許をもっているのは全体の何%ぐらいでしょうか。

A. きちんとした数字は把握していませんが、市内9校で10人いるかいないぐらいだと思います。

Q. それでは評価は難しいということを指摘しておきます。

### 雑感

森友、加計問題にみられる国政の私物化。今回の決裁文書改ざんにみられる民主主義への挑戦。前川喜平氏の講演に対する教育現場への圧力。どれをとっても今の安倍政権が生み出したものに違いない。その大本には日本会議。この日本会議による憲法改悪。本当に醜悪だ。そしてさらに年金問題。その上、機密費の怪しさ。一度、今の政権を解体して、全てを白日の下に晒して欲しい。